

(ご参考)

マツダ株式会社
2021年3月期 決算説明会
主な質疑応答

1. 2021年3月期の実績を総括してほしい。

2021年3月期のグローバル販売台数は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大に伴い、日本や欧州、ASEAN等で販売が減少したことから、対前年9%減の128万7千台となりましたが、販売が好調な米国やオーストラリア等では、需要の回復を上回る販売を達成し、前期を上回る販売台数となりました。

売上高は2兆8,821億円、営業利益は88億円となりました。コロナ禍により大きな影響を受けた1年となりましたが、緊急資金調達やパイプライン在庫の週次の把握による迅速な生産・販売対応等、あらゆる取り組みを進めてきました。販売回復、固定費抑制、変動利益向上を通じた損益分岐点台数の引き下げについて、全社をあげて重点的かつ継続的に取り組んだ結果、下期は大幅な収益改善を達成し、営業利益は617億円、売上高営業利益率は3.5%の実績となりました。収益体質の強化は着実に進捗しており、コロナ禍を契機に加速した構造改革の成果が出始めています。

2. 2022年3月期の見通しについて説明してほしい。

2022年3月期は、これまで進めてきた変動利益の改善、固定費抑制の活動を継続し、損益分岐点台数を中期経営計画目標の100万台レベルに引き下げていきます。

グローバル販売台数は対前年9%増の141万台の見通しです。米国、オーストラリアでは前期の勢いを維持しつつ、グローバルで前期のコロナ禍による台数減少からの回復を目指します。

売上高は対前年18%増の3兆4,000億円、営業利益は前々期の約400億円を上回る650億円、親会社株主に帰属する当期純利益は350億円の見通しです。

2020年11月に公表した中期経営計画では、今期は2019年3月期並みの営業利益を示していましたが、半導体供給不足に加え、貴金属などの原材料高騰リスクなどを織り込み、営業利益650億円の計画としました。中期経営計画で掲げた目標に向けて、コロナ禍を契機に推し進めてきた構造改革を継続・強化していきます。

3. 半導体供給不足懸念や原材料価格高騰の影響について説明してほしい。

半導体供給不足による生産影響は約10万台の前提ですが、在庫の最大活用を行い、出荷への影響は約7万台に抑えていきます。在庫/販売/生産の状況を週次で確認し、迅速に対応することで、販売と収益への影響の最小化を図っていきます。

また、貴金属などの原材料の大幅な価格上昇の影響については、使用量削減など技術的な対応に着手しています。

不透明な経営環境が続きますが、中期経営計画の主要施策の着実な進捗を図っていきます。

以上